源氏物語

857
117

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-117

ガラス使用

857-117

源氏物語四十の巻のうち

人もなれ心ばえの地おもとよくなれどうくおぼえてこそづらうそうおぼしこぐらくまた心ばそく世中なべていとおぼえすぐるこよなうりの籬（まがき）菜殿（さいでん）とこそいふやうもおとをず院うつくしげなるれをみてのちよく衰（おとろ）へたるれなりさ殿（ほど）をしてそうまでくされてぞ給へるべし

れおとうとの三の君（花宴の巻）浮ノ

めさ給へたまふ例のれこそすぐりつぶれもうて給へまそる給へ

帝国図書館

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-117

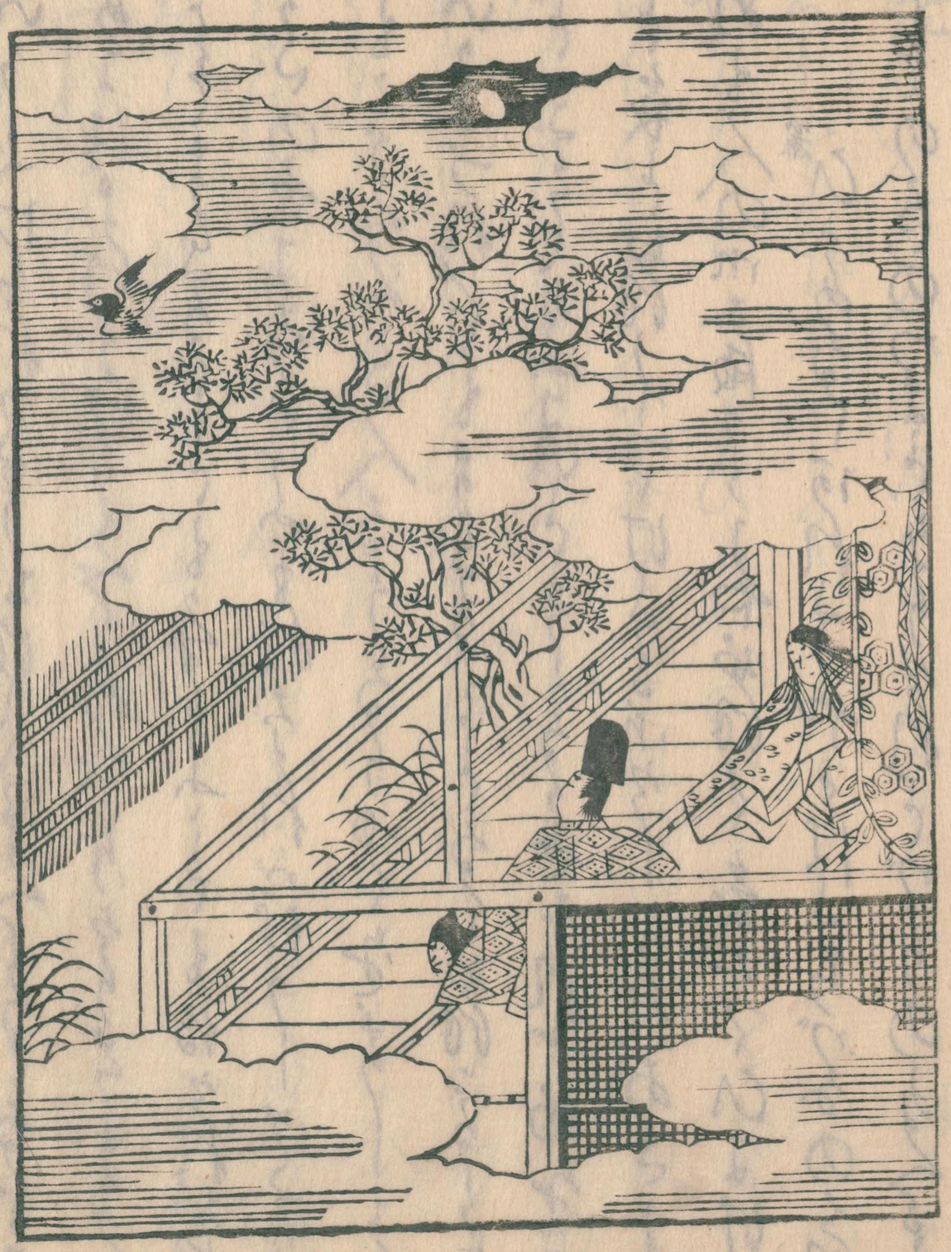
ガラス使用

ひとふれどころとのこひ
びのろこよろくおぼ
ろさくいふにおまひ出
さこぶれのをめづ
をまぐろのれよろひを
なでもとまるくだのび
おこみするはぐやうるろ家
くめろよよくなろこと
あしせまぐはく
とまりてうぐぐるろ
てこれまへがをまろのまひを

まつりのころおぼ
けるひなうこそぐ
おまひのでまよぐる
めろやとのまり
ひろおりもほろこ
ほしこそしぐなれば車をしく人をまて例
のそれこれをそれまを
とろうそぐまを
ひし宿のそれまめ時鳥ほのろろ
雨のつまは人ぐおよろこそぐまろこ
ろをりそれだ惟光
```

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-117

ガラス使用
```



国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-117

ガラス使用

源氏ゆふの三月ばかりの事まで

心ちのまぎれまでもくちをすゝぐ
くり二三日(源)(たゝ日)ゝてお目いとゞのよう
つまこゝろ地ゝおぼつかなくて
やうやうてくるへいりのほど
のこゝろぼそさいとゞしげにあれまさ
りて(夕霧)うちまのれめでたくぎ
人の中よりぬきでたまへるを
めづらしくおぼしてまうのぼりつゞけて
つとつけてまもりたまふ
さへ世のつねもさひとられて泊まり
まいつゝさ(源)

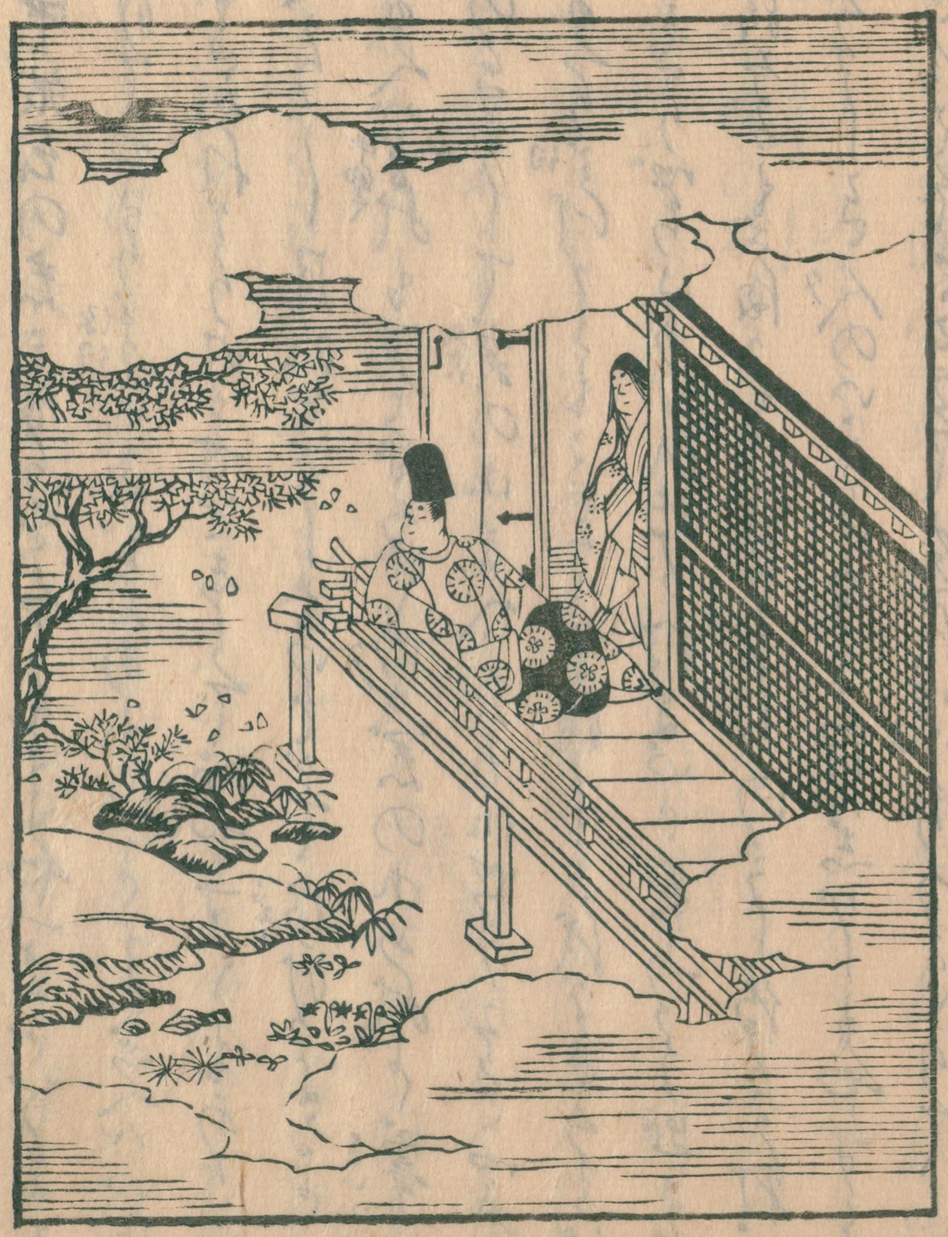
とりなさんと我れもあひ(源ム)
けれどつゝひつゝれなるあり
ばかりおもれをもてせ給ふ
給ふさまもさ地ぐくしう心をの
れ(ぎう)奏(ぎう)れとうちひそめ
まりれほぐまるんこゝやう
とまこゝせのこゝろぐ七八人ぐ
それこゝろぐり七八人ぐ
うちて出(地)ざうべこゝ
ずうちまのびのまこゝろ
こゝろくるいこぐこゝろもあ
ありのこゝろ

世の聞こえをも作りそこなひ
なくても、さるべきにこそ
れば、ろくなることもなく
ぞ聞こえ給ふ（添付）
むつかしくて作りなやみ
うのをこそ、女房なん作
られぞおこすることよ
やがのうこもりるうへの
ありありふるをまさしく
なるをとくこそすべ
作りなすべきことあるべ

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-117
ガラス使用

やうなるひとをなむ思ひまうけ侍る。よくぞうくて。
こう多をこそ思ひけるよ。おもひまゐへなどぐさめ
給ふおさうなく独しの袋うくよう
ぐまりなどしてなびさひこそあ相思や今ぐり給
んとぞひのみうに成るんぐろうびのごとまもれ
しう給ふいろ人への人も思ふよおうしまるて
しもうろこよあうろざりうりて。
人のみどまろうたぐひおくおぼされど
ひ野ろよしありてそこそろも物それば海
うぐ海はぐひ給ようんうくをんなでおくく
のれ拙袋(ね中カ)そうて給ふ位中おまりあひまて。

ゆえれよごりるさ心まうくすぐて
給ふんもおとくそぐりおくこれよりおるろ
そぐるのでまあさそる世をのぐれるんとなまよ
まへろめるなどぐ海やうよ拙袋(ぐりの)院のれよおぼしへろど
男しおそれる式しの袖もりるろのるよ
法(ほ)もえ心づくまてるしのそぐ老(タ)のろよ
ぐろろくまぐされありそて拙(た河)給ふ人(菱)を世よおまよ
る式ぐよおぼしろ通給ふ人へをまよ
まへ口するくせるくのこ今ひとべる成。
それぐしくるんまし給ふ世るうまうばいう



国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-117

ガラス使用

中納言の君こなたをうらみ
けておとゝまるをぬいめんあ
るをそれをうけつせをそ
べうし月ばをうしもの
のへがまも笑ふるく
のをうて文のれまへ
もうぐちあひ行
給なるまを夜うちうち
ぐうしろ人へのいざるま
せ給そでとうてめ

ヨセ

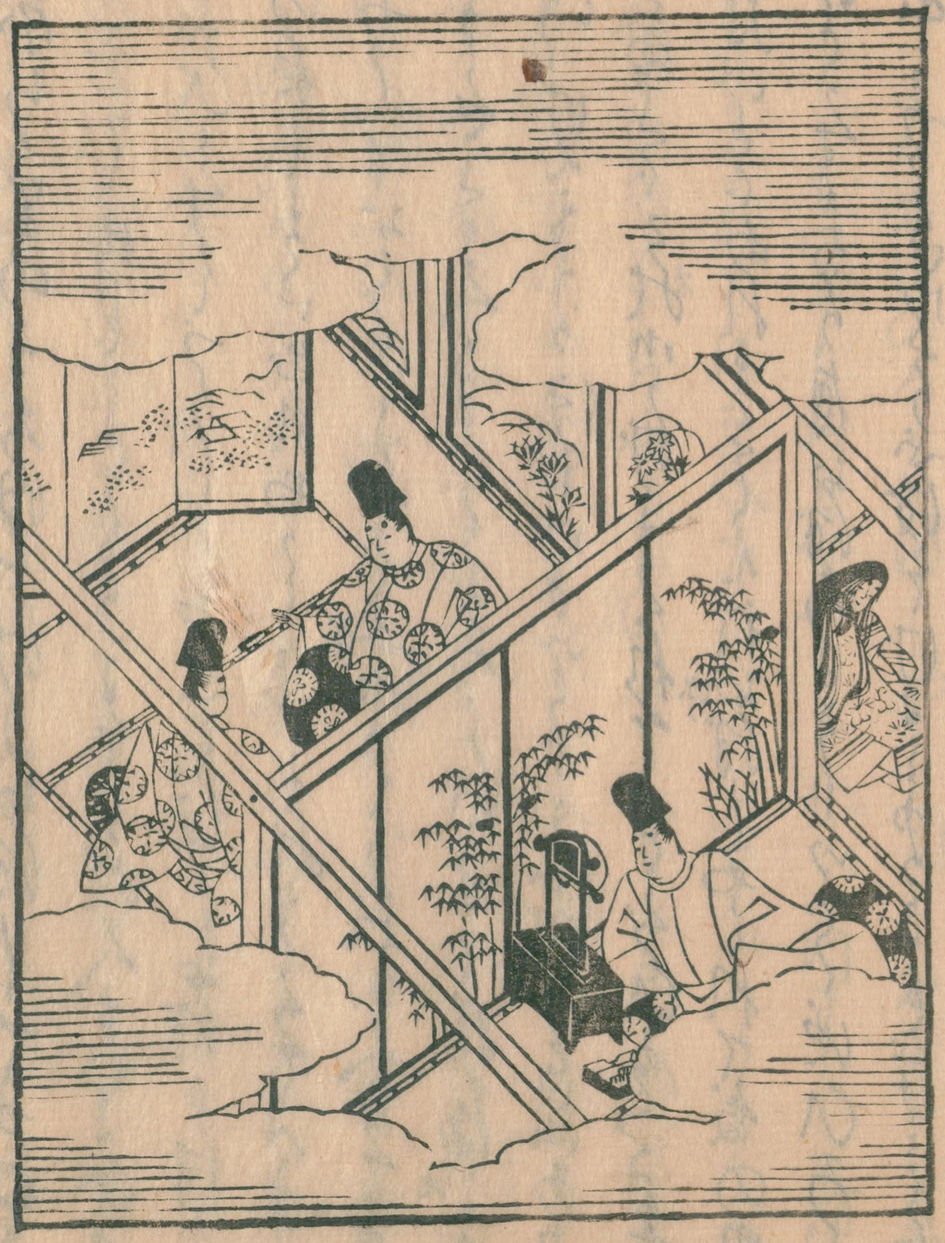
亀遊山まうで焼
やくうみそでゆくれ
まて暁の別うのやい
のへもおうんとの
ひまでうて行る
ぬぐひあるまでうぐひ
ぶまてけおあうぶ
うとよぬくやみうまへ
行る程をうせまる
んよつてもゆうまへ
まくれめべそれが心づ

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-117

ガラス使用

（重ねてのやうに）
わたり給へる家ゝ三位中将などおはしつゐ給ふ
くんとそれにつけてもいとどいにしへ
そゞろものがなしくおぼしめしいでらるゝ
ことのみおほかるに雨いたうふりてつれ
やをまさるけのみえるにいとゞながめ
くらしかねさせ給ふ人ゝもいとゞしのび
あへる御ありさまどもなり
（添付）
それぞかしとおぼしやるにもいとあはれ
なるにやうやうやみゆくほどの
（添付）
月いとあかくさしいでたるをながめ
おはしますに
（添付）
ありしよのおなじ月かもかはらねと
みしひとそなきかつらかは
（添付）
とうちながめさせ給ひて
（添付）
月かすむそらにあくがれにしたまの
行へたにとまらすもあるかな
（添付）
とのたまはせてうちしほたれ給ふ
（添付）
ほどなくあけゆくそらのけしきにも
（添付）
ひとゝきのつゆもとまらぬあさかほの
（添付）
はかなくみえしよにもにたるかな
（添付）
とのたまはせてうちながめ給へるさま
（添付）
いとゞしきまでみえ給ふ
（添付）
ひとゝきのつゆもとまらぬあさかほの
（添付）
はかなくみえしよにもにたるかな
（添付）
とのたまはせてうちながめ給へるさま
（添付）
いとゞしきまでみえ給ふ

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-117
ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-117

ガラス使用

のみて鳥もしば〳〵なけばよにつゝみていそぎ
出給ふ。例の月の入はつるほどよそへられて哀なり。
女君のこき御ぞにうつりてげにぬるゝがほなれば
　月かげのやどれる袖はせばくともとめても
見ばやあかぬひかりを　いみじとおぼいたるが心くる
しければかつはなぐさめきこえ給ふ
　ゆきめぐりつゐにすむべき月影のしばし
くもらん空なながめそ　おもへばはかなしや。たゞ
しらぬ涙のみこそ心をくらすものなれなどのたまひて。
あけぐれの程に出給ぬ。よろづの事どもしたゝ
めさせ給ふ。したしうつかうまつり世になびかぬかぎり

の人〴〵殿のことゝりおこなふべきかみしも
さだめをかせ給ふ。御ともにしたひきこゆるかぎりは
またえり出給へり。かの山里の御すみかの具は
えさらずとりつかひ給ふべき物ども。ことさらよそひ
もなくことそぎて。さるべきふみども文集など
入たるはこさては琴ひとつぞもたせ給ふ。所せき
御てうど花やかなる御よそひなどさらにぐし給
はずあやしの山がつめきてもてなし給ふ。さぶらふ
人〴〵よりはじめよろづの事みな西のたいにきこえわ
たし給ふ。りやうじ給ふみさう。みまき
よりはじめてさるべき所〴〵の券などみなたてまつれおき

まつりごと給。それより外の御くらまち、おさめ
どのなどいふことまで、少納言をはか〴〵しき物
に見をきたまへれば、したしき家司どもぐして、
しろしめすべきさまども、のたまひあづく。わが御
かたの中務、中将などやうの人々、つれなき御もて
なしながら、見たてまつるほどこそなぐさめつれ、なに
ごとにつけてかと思へども、いのちありてこの世に又
かへるやうもあらんを、待つけんと思はん人は、こな
たにさぶらへとのたまひて、かみしもみなまうのぼら
せたまひて、さるべき物ども、しな〴〵くばらせ給ふ。わか
君の御めのとたち、花ちる里なども、をかしき

さまのはさる物にて、まめ〳〵しきすぢにおぼし
よらぬくまなし。尚侍の御もとに、わりなくして
きこえ給ふ。とはせ給はぬもことわりに思ひ給へ
ながら、今はと世をおもひはつる程のうさもつら
さも、たぐひなき事にこそ侍りけれ。
あふせなきなみだの河にしづみしやながるゝ
みをのはじめなりけんと思ひ出づるのみなん、つみの
がれがたう侍ける。道の程もあやうければ、こまか
にはきこえ給はず。女いといみじうおぼえ給ひて、
しのびたまへど、御袖よりあまるもところせく
なん。なみだ河うかぶみなわも消ぬべしながれて

めおぼしつゞけてなまめき給へるさまもいとつきせぬ
今夜なんまいり御山にまうで侍る御ことづて
やときこえ給へど、とみにもきこえ給はず、わりなく
ためらひ給へるけしきなり

（藤）見しはなくあるはかなしき世のはてをそむ
きしかひもなくなくぞふる、いみじき御心まどひ
どもにおぼしあつむることもえぞつゞけさせ
給はぬ

（源）別れしにかなしきことはつきにしをまたぞ
此世のうさはまされる。月まちいでゝいで給ふ御
ともにたゞ五六人ばかり、しもべもむつましき
かぎりにて、御馬にてぞおはする。さらなることと
なれど、ありし世の御ありきにことなり。みないと
かなしう思ふ。中に、かのみそぎの日、かりのみずい
じんにてつかうまつりし右近のぞうの蔵人
うべきかうぶりも程すぎつるを、つゐにみふだけ
づられて、つかさもとられて、はしたなければ、御とも
にまいるうちなりけり。かものしもの御やしろを、かれと
見わたす程、ふと思ひ出られて、おりて御馬
のくちをとる

（蔵人）ひきつれて葵かざししそのかみをおもへばつらし
かものみづがき。といふを、げにいかにおもふらん、人

（ほ）おけうそうそうものて
そ給ま命婦をはゝきうそうと
つぼのまそてみ給ふるんおとゝ
めうそんおまるのうれへ
ゆうそうびとそうそうてけい
いひまる春の朝の
山びてて桜のちうすふ
そんとゆうんをそすればおさ
まそておりますゆるせいう
それば春ふそくめぐる春
まそていうよへうとのそれの

いけ(泛)る世のつれをしらぬ人もなうざりけうれどもとまるべきにしあらねばなうまうまうへだ
なう(生)あ(泛)うとめ(泛)つれ(泛)ばそでぞぬるゝ
いとゝすてがたうおぼえたまふ
ゆくへなきそらのけぶりにまがひなばかすみとだにながめられずや
ひとりゆく煙はいとゞ心ぼそくてうちつれて(泛)
あれて松だにうゑずはゝそ(泛)ばの(泛)
うき(泛)ものとこの世に残(のこ)しとゞめおきけん
られぬあはれをそへんうきにそへてもなほこの世のつらさを
こりずまにやまたもかゝる波のうきふしをしげくみんとすらん
世のつねのうきことなれどよろづにおもひつゞくるに
なうとのこれとまれかくてとまるべきにしあらねばなうまうまうへだ
へだてゆくまゝの山(なま)路をこえてはるばるとおくりたてまつりたまふ
星(ほし)のかう(泛)の心ちすれどひのあかりにみる星をこれのみ
そいあるぞ雲あるうへにやまれるべき

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-117
ガラス使用

ほいちうすべきこゝろかいゆきさのの中納言のよし聞こえ
のこゝろびけう家(いへ)ゐなからこゝろやましうて哀(あは)なるすまひ
頃(ころ)のこゝ面(おも)ようごゝちめでたしどもおもひやらるゝやうなどおろ〳〵なみだもとゞめがたし
こゝろひろ〳〵ときよげなるやうにもてなしてうちなきなどもするをいとむつかしのわらはごゝろのすきひあるにや
ちごさ亦ごのえさうのつゝみてさゝやかなるをもてあそびつゝ
ゐたるをいとゞ見すてがたうおぼえてあねん(あそん)なるどもとゝのへさせいとおかしきまでうつくしうおよすけたるをまいて哀(あは)なるよもぎのまろよもぎ

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-117
ガラス使用

のこひやうべ…大とのゝ掌(タノ)相のみれとも
つうまうるべきとそうらす京のた
れもとゝろくぐまこゝろつれそろぐれも
人ぐのこゝろ(紫)の色(紫)そのまゝなるさ
もおぼつかなうこゝろをあさ
まふ人ぐもこゝろ(紫)ばそうもひあ
うらまてるこゝろ(紫)のれでうぐもひさるゝ
しのひゝろをあさすてまくるれぞのまひ
ぐまつけておいまよゝろくこん人の
やうのこゝろ(紫)ばゝれぐひいかゝうてお渕(ふち)
僧都(そうづ)れいのりのこゝろ(紫)

ほうをよそをせ給ひくれ心(ヲ北山)
ぐのまてるぐこゝろ(紫)のごくまうべさ
海まちよ心ぐるこゝろ(紫)のりの給ふびのれ
とれおねるぐてうぐて生
しゝろさ海うそうろ心ちするもうぐさるゝあ
焼(ぐ)との給ふ一面うびのぐまうひま
るゝ出(い)りまひゝろこゝろ(紫)ばゝまさ狙(ぐら)か
よ我こ給ふもむものこゝろ(紫)ぐて…れをそうう
そひめぐゝせまこゝろ(紫)ばのこゝろ(紫)ぐる
ありまゝてるれむつびゝろ(紫)ばまるりゝ
おうこひゝろ(紫)ばゝそうまるれぐ俄(にわか)まひさ

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-117
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-117
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-117

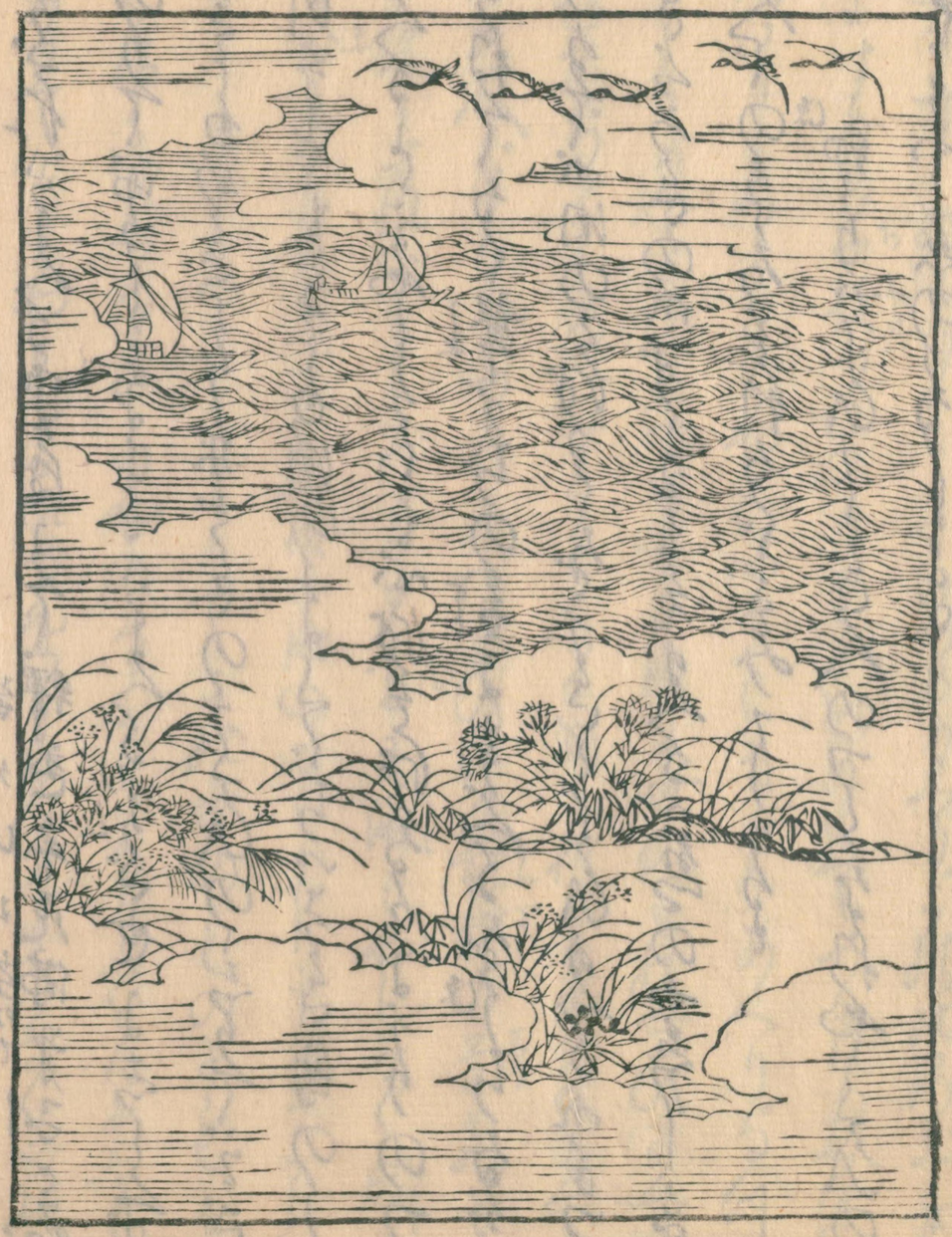
ガラス使用

れ(勝)ど、さすがにこのをりふしの心のうちどもなどいとあはれにおぼしつづけられて、(ほか)
ぐ〳〵にいとまめやかにてさぶらひたまふ人々をも、ひとりひとりさすがにあはれと
のたまはせ、(勝)御心ばへどもをしるく聞こしめしおきてのたまはせつるを、(九門行)世中こ
そあるにつけてもおぼしさるまじきことにつけても、(勝)えのがれたまはざりけ
ることなれば、(勝)人々しくもあらぬ身どもまでもおのがじしはかなきことにつけ
ても、(勝)思ひおきてのたまはせつるをうれしくもかたじけなくもおぼしけるかな
かにも、(勝)ただ今のをりのことにぞありける。

(勝)れ(勝)ど、(勝)まだ(勝)ねをのみ泣きて、(勝)今てのをりのことにぞありける。
すぐさまつひてまゐらまほしくこそ(勝)思(勝)ほ(勝)れ(勝)いづれば(勝)(九門行)なかなか
なるおくれとのみなげかるるまでぞ(勝)思(勝)ほ(勝)れ(勝)ける。
そこそこさうぐ〳〵しき(勝)ほ(勝)どにもあらず、(勝)ほ(勝)どの(勝)ほ(勝)どもいとかく
なんどいふにもいぐ
うちなど(勝)思(勝)ほ(勝)れ(勝)ころのかたはらいたきまでぞ(勝)思(勝)ほ(勝)れ(勝)ける。
人々のおのおのさぶらひたまふ(勝)ほ(勝)どにて、
いとあはれにかたじけなくもあるかな。
心ぐるしくもあるかな。(勝)ほ(勝)どの(勝)ほ(勝)どもおぼしつづけられ
ぬべし。
中納言のとの(九門行)遠(とを)れど、行平(ゆきひら)のよろづのことをおぼしやりつつ、
よろづにいとかくあはれにかたじけなくもあるかな。

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-117
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-117
ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『源氏物語』 請求記号 857-117

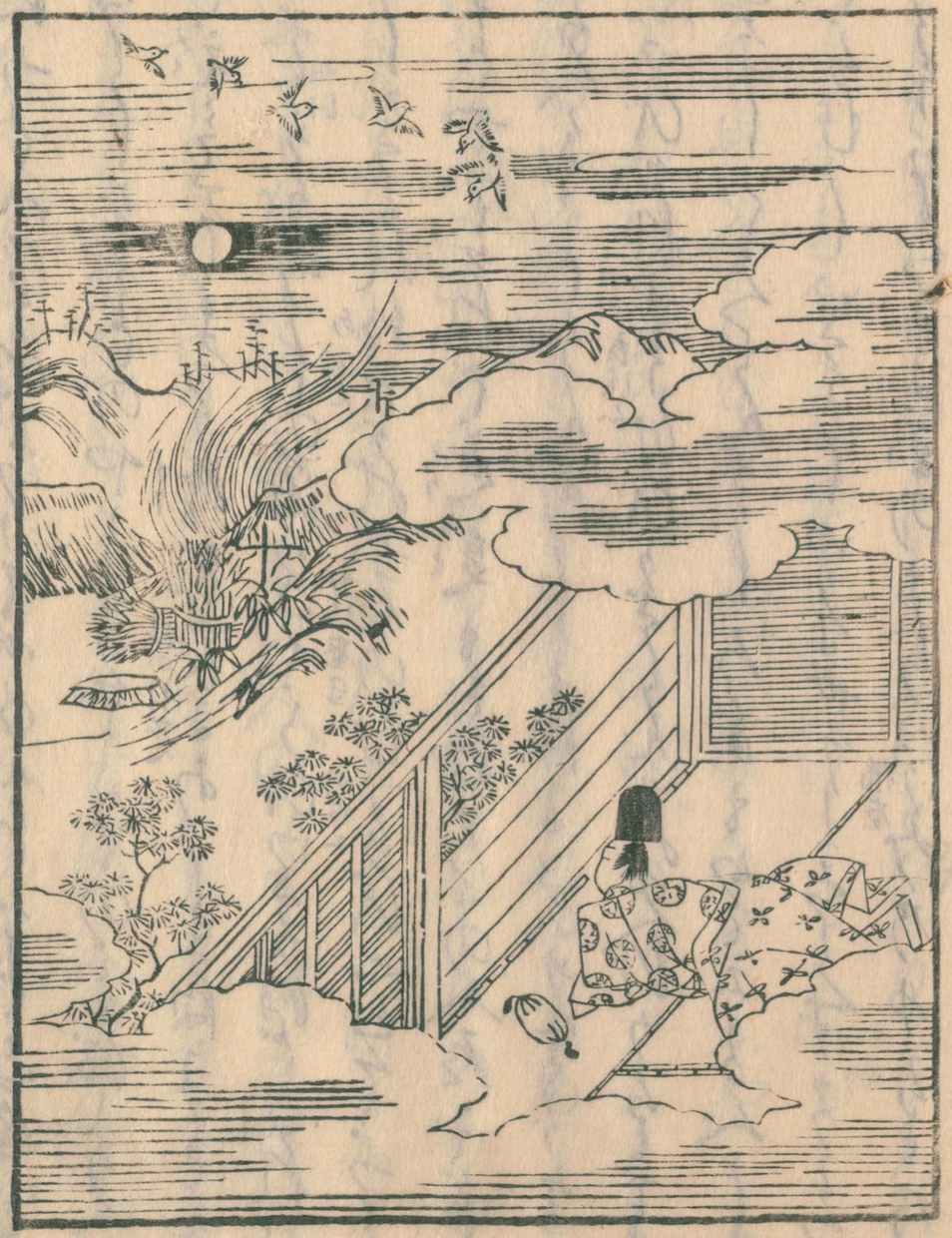
ガラス使用

[illegible]
良清
[illegible]
[illegible]
惟光
[illegible]
[illegible]
[illegible]

のれ衣(ぎょい)い今ろくまありとすす
ろよ多くるふ。ろくそろ
ろ(係)ーとのこひとへよ
みさまめろく袖ろふそれ
いろーうふいひろくむよ
れだ小(ささ)のろくハまそのぼ
えろろーひくろよはろ
心ろまろよだねくておふ
いろつろさむよそちら尺
心ぴそうところまて血
すぐろふあーろよろんの声(こえ)
ろよろこゆろぐろろのろ殿人のれほぐ物のの
心ぴそさろうあひめ心あろぐろれるそよ
大弐(だいに)ろちれせろうそこまくろうひぐろろ(汀)
胸ろりのりてしまぴいつーろまひて物のれ
物語(ものがたり)まくこそ心の人物ろれ
おつまーけるれやぐりをまろぴけか
くろるーうも物おひろて物人ぐろべさ
それまでさむひてあまる物れ前をそ氏
思へくぐり物ろてえそつあと
ろこそまろ物ろんでろれち
んのろぞまいれる山(ほ)との花人ろーう

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』 請求記号 857-117
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-117
ガラス使用



いづくの雲ぢよりわれもまひおんなの
そらとぶまでぞひとびとらかなて例の
夜どろもれぬ曉のそらよふかく
ともしき夢もさめまどろさ曉いひとり秋覚
の夜も更ぬまどろさ
ひとりごちてうつ人もなれ逢

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-117

ガラス使用

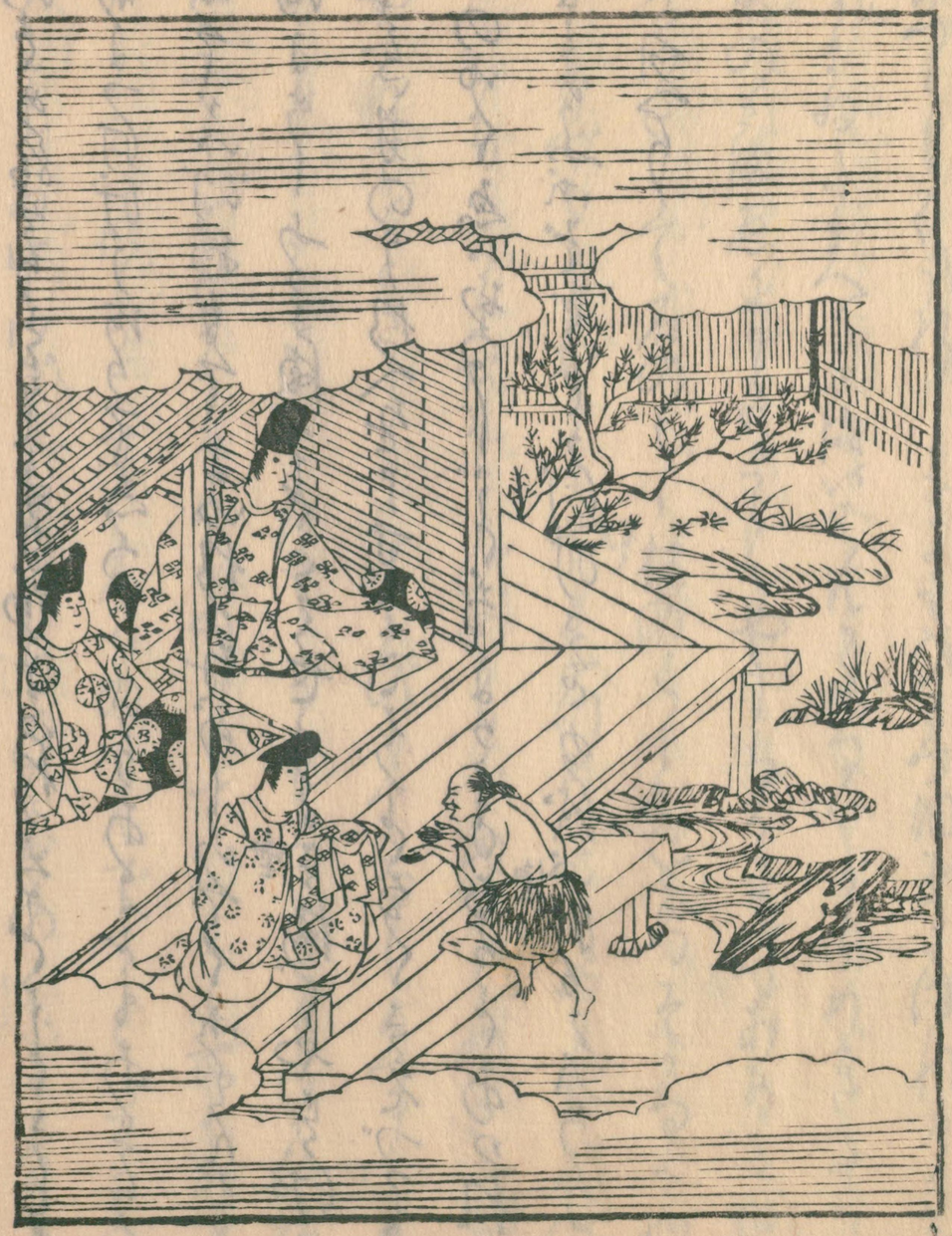
国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-117
ガラス使用

これはおもひあらそふさる人ハ、されをとるまのかず
まさおぼさじ給はつけうる世をバさしまらじ
今なすくておもふ人ごとをされるだし給まもあり
らん海のうへのさまも入らんらどぞ出けうちくだれ不
をくさひつゞきて年は二たび経音まいりで
させる神のれたりし年ぞ人もれぞとのことひ
けうすまほ年（源氏六歳）かりて日もすぐつれぐるは
うへし若葉の桜ほのとさきそめて花ぞうら乃
気色うらくなるは（源心）のけのよおぼし出られて
うちなき給おりく哀らう二月廿日あまりいまし
年ごろとけられし時心ぐるしかりし人でのれちう

さ夜なとはことにしく南殿のさくらハ盛なるり
めぐらん二年の花のえんは院のれなしこさうちの
人のいくらうつりまた後めいそひびくれなん
すぐ給しもぞいそこさって給
（源）いつとなく大宮人の心しこゝるまさりうさ
ちてそふなきるなからいとつれづくなるは大夜の三位
中将の今は宰相になりて人がらのいとよけれど
時世のおぼしてもれしまへど世中いと哀れ
あぢきなくものおぼしうる悲しく覚えまへど
そのさとへありてつるあるともいふべく
さんとおぼし給てはなくるまうで給ふうちへ

めづらしくうれしくさまざまに
すまゐをつくるさまいとをかしく
雨のさはぎまどろまれぬやうなり
ふりくらして石のきはの松のくろ
うめづくおうしやまぎ
こぐちをたたきてとさまかうさまに
やつれてことさらめいたるすびま
いうしうちうるおいまれてしめ
へるでうどもうそめもろ
くるまいれてこすぐろくのそんでうどもざの
くたびれ中ぼそるまるまでうへ

けよめきそうとしうり物まいれうるどもこうこ
雨よつけけうりてもうるまうあるまどもあるう
もそぐいげ和もてまいれうるをめいぐくれくんもそ
海まうつうさ海をまどもうるさ海ぐやもげ
うるまものうれへをすてこそくさえづる
心のゆくえいあるづよるとあれ
まこのおれぞどもうげけさをの代いけうへあう
とうう



国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-117

ガラス使用

聲(こえ)よずして給(たま)はるもの人(ひと)
ぞくのうち副(そ)へ学(まな)べり教(をし)へ給(たま)
ひつれてつかうまつるおとこの
おほ(ほ)とぢいのれの書(ふみ)
とりつぐ(つ)掌(つかさ)相(あひ)
そらをで
おろ(ろ)くはうれ(れ)
なやまんざうべ教(をし)
まてお(ほ)との
とてかく(く)
それどもおろ(ろ)
給(たま)はるの(の)
立副(たちそ)へ学(まな)のやうに
つとるぐうあう海
けるされを
ゆくうなばれめ
めぐれぐるぐ

給(たま)はるの(の)
ちのびめくとてふ(ふ)
ざうり人(ひと)ざめ(め)
日やうくうあり(り)て(て)
ろりこのこと(と)
こちり(り)給(たま)
もくてやとよ給(たま)
雲(ほ)ちくとびみ
のとるる男(を)ついし
人(ひと)むうのうとる人(ひと)
ひまでとろく給(たま)

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-117
ガラス使用

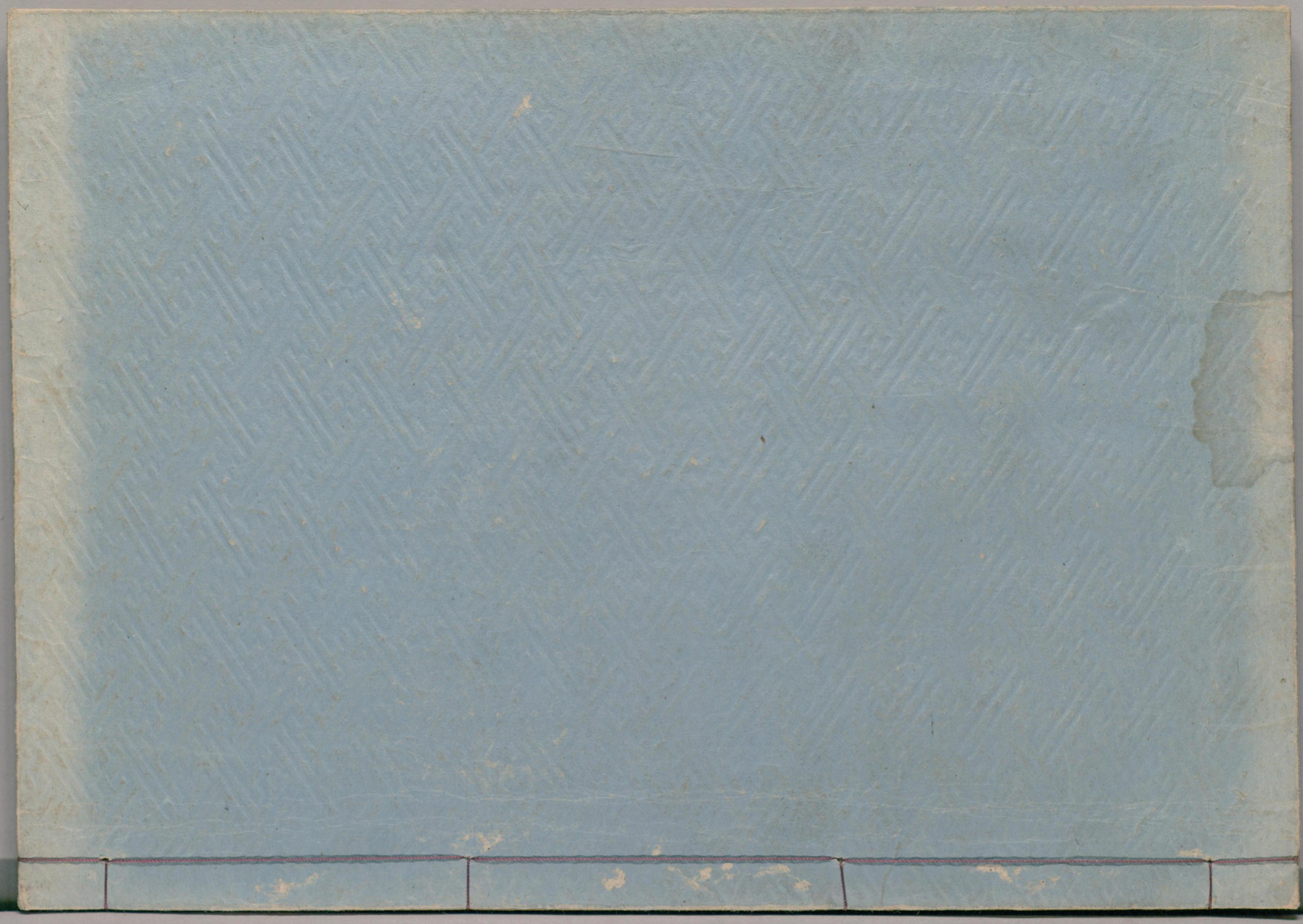
をさまらんとすらん。さひ侍るめるなどの給ふ。宰相
たづかなき雲井にひとりねをぞなく
つばさならべし友をこひつゝ。かたじけなくなれきこえて侍て
いとしもとくやしう思ふ給へらるゝおりおほく
など、しめやかにもあらでかへり給ぬる名残、いとゞか
なしうながめくらし給ふ。やよひのついたちにいで
きたるみの日、けふなんかくおぼす事ある人は
みそぎし給ふべきと、なまさかしき人の聞ゆれば
海づらもゆかしくて出給ふ。いとおろそかに、ぜん
ぜうばかりを引めぐらして、この国にかよひける
陰陽師めしてはらへさせ給ふ。舟にことごとしき

人がたのせて流すを見給ふにもよそへられて
しらざりし大海のはらに流れきてひと
かたにやは物はかなしきとてゐ給へる御さま、さるは
れにいでて、いふよしなく見え給ふ。海のおもて
うらうらとなぎわたりて、行ゑもしらぬに、こしかた
ゆくさきおぼしつゞけられて
やほよろづ神もあはれとおもふらんおかせるつ
みのそれとなければとの給ふに、俄に風吹出て空も
かきくれぬ。御はらへもしはてず立さはぎたり。ひぢ
かさあめとかふりきて、いとあはたゝしければ、みな
かへり給はんとするに、笠もとりあへず。さる心も

857
117

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-117

ガラス使用



ガラス使用
国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-117